

令和2年9月10日

新型コロナウイルス感染症対策情報について

令和2年9月2日（水）（午後4時～）に、第37回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、下記のように決定いたしました。

記

【決定事項】

- 立川シティハーフマラソン 2021 大会について、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催を中止することとしました。（別紙）

立川シティハーフマラソン 2021 大会の中止について

令和3年3月に実施予定の立川シティハーフマラソン 2021（以下、「2021 大会」）については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に十分な対策を講じたうえで開催ができるよう、主催者が遵守すべき業界のガイドラインである、日本陸上競技連盟が定める『ロードレース再開についてのガイダンス』に則り、慎重かつ多角的に検討を重ねてきた。

しかし、依然として感染拡大の収束の見通しが立っていないこと、上記ガイドラインを確実にクリアできる運営体制が困難であることから、2021 大会を中止することとしたい。

1. 予定していた 2021 大会の概要

- 開催日 令和3年3月14日（日）
- 開催場所 陸上自衛隊立川駐屯地滑走路内、国営昭和記念公園
- 大会規模 エントリーするランナー 約 10,000 人／大会関係者 約 2,500 人
 - ◇種目 ハーフマラソン 定員 5,500 人
 - 3km レース 定員 2,500 人
 - 親子ペアレース 定員 300 組 600 人
 - ◇併催 第24回日本学生ハーフマラソン選手権大会 約 1,500 人

2. 日本陸連『ロードレース再開についてのガイダンス』における主な開催条件

- 緊急事態宣言が解除されている。
- コースを通過する全ての自治体が開催を承認し、かつ地元要充分周知されている。
- 開催地における診療体制や、緊急時の後方支援病院が確保されている。
- 全参加者及び関係者の連絡先が把握されており、大会開催の1週間前から終了後2週間を経過するまでの健康管理チェックリストの提出が受けられる体制がある。
- 大会事務局に、医師と保健師を必ず含む「新型コロナウイルス感染症対策室」が設置されており、感染予防対策マニュアルが作成されている。
- ランナーの走行中を含め、3密を確実に避ける競技運営がなされ、ソーシャルディスタンスが確保できる会場計画になっている。

3. これまでの経過

(1) 7月31日（金）第1回 2021 大会実行委員会を開催

ガイドラインの内容に沿い、クリアするための条件や課題を洗い出し。関係機関等と丁寧協議し、その結果を基に検討することを確認。

(2) 関係機関及び団体との調整及び見解

- ・ 陸上自衛隊駐屯地…防衛大臣の通達により、当面の間、入場を1,000人以下に制限中。
- ・ 国営昭和記念公園…東京都のステップに沿い、屋外イベントでも5,000人以下に制限中。
- ・ 立川市医師会…現下の流行状況や冬季の感染症等への対応を考えると、協力は困難。
- ・ 東京都多摩立川保健所…マニュアル作成の相談は受けるが、お墨付きは出せない。
- ・ ボランティア協力校…生徒の従事について、保護者の理解が得られない。
- ・ 協賛（ボランティア派遣）企業…現下の状況では、協力要請に応じられない。

(3) 8月13日(木)第2回2021大会実行委員会を開催

案1:開催定員を大幅に縮小して実施…参加料の減少により大きな赤字が生じる。

案2:複数グループを分散スタート…交通規制の時間延長が生じ、許可が得られない。

案3:オンライン開催…公認大会の正式記録にならない。立川の特長が生かせない。

これらのことから、以下のように実行委員会の案をまとめた。

●2021大会を中止とする。

●中止の理由は、以下のとおり。

①新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束する見通しが立っておらず、市民やランナー、ボランティアなど誰もが安心して参加し、この大会を楽しめる状況に至っていない。

②主催者が遵守すべきガイダンスを満たすためには、従前を上回る医療関係者の従事体制や専門の設備、急患受け入れ先の確保等が必須条件であるが、地域の診療体制に支障を来さずに体制を確保することは困難である。

③参加者の健康管理や消毒・検温等の予防策を徹底した場合であっても、走行中を含め、「3密」を確実に回避するための誘導や設営には限界があり、運営上の課題が大きい。

④屋外で開催されるイベントについても、いまだ同時に参集できる人数には制限があり、今後の感染拡大の状況等によっては、会場の借用ができない可能性も考慮する必要がある。

●併催予定であった学生ハーフ選手権については、これまでの本市との関係性や大会の持続性に支障が生じないよう、十分かつ丁寧に対応していく。

(4) 9月1日(火)第1回2021大会運営委員会(実行委員会の上部に当たる組織)を開催
上記の実行委員会案を全会一致で承認するとともに、以下の付帯意見が出された。

・日本学連と十分に調整し、学生ハーフ選手権が開催される場合には、立川市としての支援を検討する

・2022大会の安全な運営や魅力向上について、早めに着手・研究しておく。

(5) 9月1日(火)2021大会事務局と立川陸協及び東京陸協関係者が、日本学連を訪問
運営委員会の決定内容についてご説明するとともに、本市での学生ハーフ選手権単独開催の可能性について意見交換。

→「令和3年3月の選手権は、同年8月に中国・成都で開催予定のユニバーシアードの選考会を兼ねているため、ぜひとも開催したい」とのご意向。

9月10日(木)の理事会にて、立川での開催を視野に、駐屯地内周回コースで箱根駅伝予選会を実施する関東学連の手法も参考にし、詳細を協議する予定。

4. 今後の本市の対応

(1) 2021大会の中止についてプレスリリース【タイミングは要調整】

関係機関や協賛企業等への事前説明、日本学連等との十分な調整を得た後、発表。

(2) 学生ハーフ選手権が単独開催される場合の支援の検討

10月17日(土)開催の箱根駅伝予選会(関東学連主催)を視察し、医療・救護体制、運営上の配慮、会場設営計画等を参考にし、陸協関係者等と連携しながら、学生ハーフ選手権が立川市で開催される場合には、先方からの協力要請に応じた支援を検討していく。